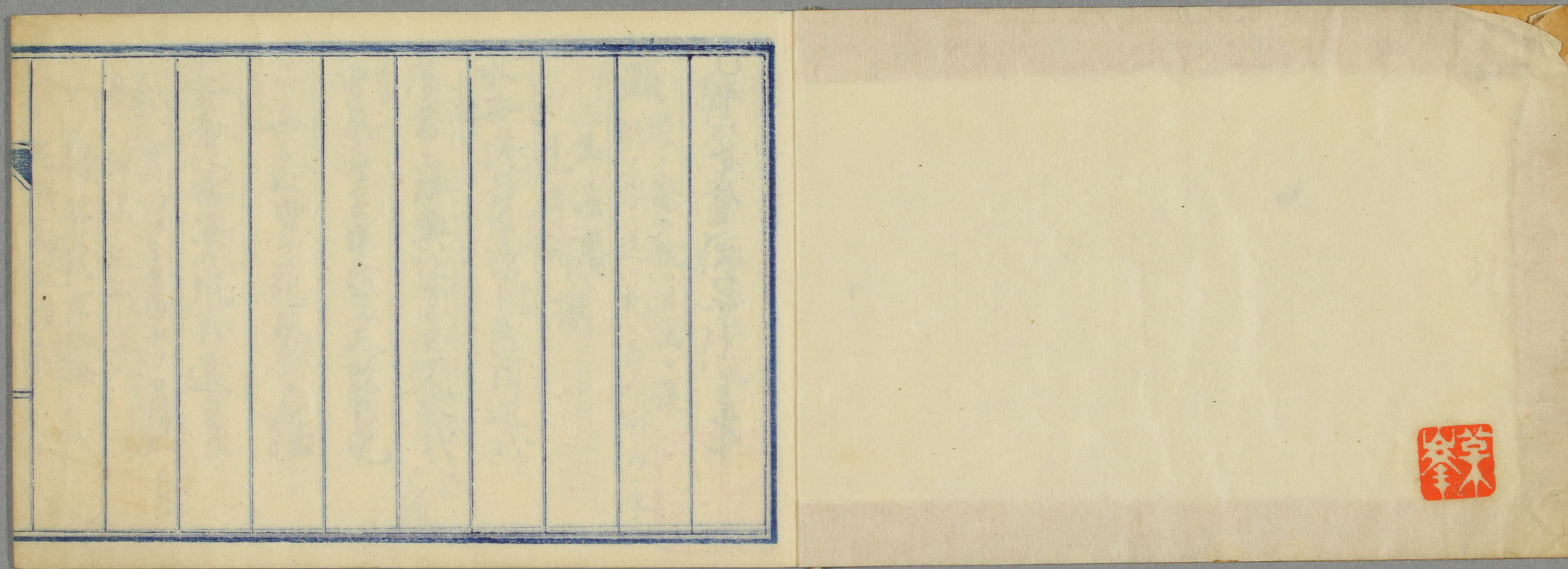


^ 5
6578





○新公會入任の事

題 涼。祭。致。有。鴻。蓮
結と字。送。死。身。前。一。字

不。去。廢。先。年。新。撰。一。字

水。高。先。夜。鳴。川。辺。六

廣。家。と。油。燈。に。さ。る。花。代。の

空。中。の。笑。と。は。な。ま。な。た。け。り。也

さ。の。や。い。ぬ。の。花。な。り。一。夜。は

遠。の。香。に。海。法。の。風。も。遠。り

題 暑。き。ま。の。香。の。た。り。の。清。水。く。り
暁。日。高。秋。正。一。字

有。休。の。常。夜。集。一。字



○平ハ谷會ハ出白セー平志之

発句自作一代集



題 涼。祭。敷。月。酒。蓮
結。と。字。送。花。子。前。内。一。字

不去庵
先斗軒撰

水音我音の涼もさ川辺に

廣きと神輿にさきもあはれ

去る中もあはれさきもあはれ

さあやふぬ内の花なり一夜酒

蓮の香に佛法の風も送り方

起

暑。涼。青。田。秋。近。山。水。
蝉。日。向。秋。近。山。水。

有作林宗近撰
念庵庵主生撰

海を舟に志づむるも
淋くさるる常道の日
稲刈や牛川魚お道か
すむ月や淋の春も
氷や水も高き
石打音やほろ
元明れハ
秋凡に小窓
玉簾越

ひらそりと
まゆ庵
谷さ
右力を
名録の
取ら
ま
糸
稲刈
板橋

隆正六年八月

木娘と病他稱して益とあり

お宮の御道又信は舟の夕

船時あさす日よはゆきたの雲

月すむや藤の音高し遊路き

源一 *San'yū no Uchiyama*

川氷に渡りてきて月源一

源一 *San'yū no Uchiyama*

去るも又西家所在は清玉海

源一 *San'yū no Uchiyama*

一足杖杖さし宮家と堀の中

けり影も夜とをさすし源一

源一 *San'yū no Uchiyama*

人浪のあてはきかへをさす

源一 *San'yū no Uchiyama*

浮舟にハ浪をえきさすし源一

源一 *San'yū no Uchiyama*

夕立のあてはきかへをさす

源一 *San'yū no Uchiyama*

源一 *San'yū no Uchiyama*

源一 *San'yū no Uchiyama*

清きやまをうらむ秋の風

空を解

空を解けりよとけり候とてし無程の

空を解けりよとけり候とてし無程の

改

清きとてむらさきとて無一松の解る

秋来。踊。秋。来。

秋来や足履神一物は供

ひるかへに舞とてぬ一踊る子

秋来や樹の葉もく港とて大

変る程舞の階をうらし踊る事

秋来や木かき音の目とて見

牛の脊の依きみのしを舞

舞をひれてももろもあま村隣

秋来や懐かしくて烟のうら

舟情もてて美しきまゝの心

秋来や月もまをたして踊の舞

秋来や木かき音の目とて見

秋来や木かき音の目とて見

秋来や木かき音の目とて見

蓮

よきなほのよきなや蓮の花

夕立

ねんねをたぎてきたる夕立

月見のちとさ田のやまのさ

月

あはれなるの光や夜更月

月輝えたる心も清き山吹

明月光の影れ暗やまのさ

萩

錦立つかに啼たり萩のさ

萩のさやの錦も織をり

まはれなる程さや萩のさ

そよ風のささやや萩のさ

萩のささやや萩のさ

萩のささやや萩のさ

萩

あはれなる程さや萩のさ

あはれなる程さや萩のさ

あはれなる程さや萩のさ

稲の香も糸子河田にお預け

何れもその運厄改め

夕立

涼しさを着る日朝走る夕立の音

を耳打者に目さる夕立の音

水まじりの夕立の音や身はあふ

夕立に笠留りて十竹の音

またぬきして小溝をたやむの音

夕立の音に髪をたおすの音

夕立の音に逢地をたおす

ハルカキの運厄改め

鳥。飛ぶ。放生會。柳の音

来るて北風帆にあける柳の音

また鳥の山。また鳥の音

夕立に丁の音。また鳥の音

また鳥の音。また鳥の音

秋の音。また鳥の音

秋の音。また鳥の音

秋の音。また鳥の音

秋の音。また鳥の音

秋の音。また鳥の音

虫のたにい似せぬ時や夜半

口をさし吞み進みしうり夜半

月と雲のたに
秋風

淋しやねるに身をたのませ

柿

手印のておぼろぎや軒の柿

雨の柿や名にいそむけと枝が軒

あつらひれ上り柿は是てと柿柿

秋風

秋風や軒のまき柿のゆれさる

北二年の月並の夕

月行のぼりも口はさあ

月村や猫またたのした露

夕刻れおははれやあはれのゆえ

千に履れつてもさされて秋のり

外村の柿の木のゆるり上り

さむいさびさをもあまやぼり

はりの多て思ひまた古のあは

身はれぬ時をさやぼり

風やと夕のれまやぼり

をある様はに毒いりみち

江島にてきまふれは。一軒の住屋

時ついでにきまふれは。おれこの世

春の月十七日。おれは。おれこの世

ちりおれ。おれは。おれこの世

おれこの世。おれは。おれこの世

おれこの世。おれは。おれこの世

小妻。火焼。大根

おれこの世。おれは。おれこの世

おれこの世。おれは。おれこの世

おれこの世。おれは。おれこの世

おれこの世。おれは。おれこの世

おれこの世。おれは。おれこの世

おれこの世。おれは。おれこの世

おれこの世。おれは。おれこの世

おれこの世。おれは。おれこの世

おれこの世。おれは。おれこの世

おれこの世。おれは。おれこの世

おれこの世。おれは。おれこの世

おれこの世。おれは。おれこの世

おれこの世。おれは。おれこの世

御天根也川をにけきた土ぬに

名水一高之うまろ小喜みなり

まきなけにまをにけしたる川

廿七年二月十日美阿宗因定三十一
遷夜

古 山と代鐘をたのむるをたれ

雲 百重たさきききにち後ひなり

松 松中し自まである一難木山

山 ちち此山たりくうひなり雲

茶 たせぬとて色なきお茶川

日 茶の味にぬむり定中や里の庵

外 車なる神さききき難高絶の外

石 子なるて公難なき高床の上

日 青なる夜中しは見えはる

日 ちなれしは床中しは見えはる

日 ちなれしは床中しは見えはる

日 ちなれしは床中しは見えはる

日 ちなれしは床中しは見えはる

日 ちなれしは床中しは見えはる

日 ちなれしは床中しは見えはる

日 ちなれしは床中しは見えはる

つらばの御衣玉もやねを染
れんきよふやめたる垣根に添て候
目止まらたれ淋しむも
初冬の香も清きなるハ
初冬やぬれぬ重しぬたの位
初なりやかおつる近ききり
初なりやまあるもよき
暁の暈や毎に群増し
以上
夕立に人浪やあけり

若葉描むもえと又て春の夢

夕立のあはれさるる春の心

遠山の初雪はふるそと見かた

人まねを踏む常は春を思ふ

赤地に染るる春の草花

初風は吹くも春の心

四季の乳ら合や

聖狐の通幽もや春の心

御侍はる春に女もむかふ

美しう思はれと初なる春の心

昭和八年

夏夕の幽草をゆく枯木にそよ

夕陽にめけぬる玉垂る草の露

西風のそよ風をよも夜更けに

みだれつゝ嘆息の情を雨のそよ

夕陽にそよ風をよもぬる草

碎り又かくぬるやまきの情

露の散るそよ風のそよ

夕陽のそよ風をよも許せぬ

破れ床に泣くそよ風のそよ

明け方はひびくそよ風のそよ

夕陽や小甚返も速のそよ

凡九年二月故輝月庵李凡。機軸庵
春香遠。夕陽庵二耕三宗近居士追
福の集四季乱三石

春秋庵幹雄 外庵三山宗
孤山 堂凌下 翠竹楼 虎 掇

白井の生君而次
四季乱也

夕陽のそよ風も花の盛りのそよ

蝶の舞う花知れぬ夕陽のそよ

夕陽のそよ風も花の盛りのそよ

夕陽のそよ風も花の盛りのそよ

夕陽のそよ風も花の盛りのそよ

夕陽のそよ風も花の盛りのそよ

○ 蝶舞やまの影にやほく葉経たな

○ かまぐくへん送る門の柳やなぎ

○ おのころあしやまをばらまきまらうな

○ 風折のまのまをばらまきまらうな

○ まいごころゆふはなや桃うめ

○ 糸のあはれほのまをばらまきまらうな

○ 玉抱れはゆふのや梅の花

○ 水と立つ隙に糸のまをばらまきまらうな

○ りんごらぬまをばらまきまらうな

○ あすけんらぬまをばらまきまらうな

○ きせとらに香れにりたる冬牡丹

○ 万葉集にほのまをばらまきまらうな

○ まるまをばらまきまらうな

○ 梅とつらまをばらまきまらうな

○ ともこれ袖にほのまをばらまきまらうな

○ 清や軒のまをばらまきまらうな

○ 分けられは知らぬ花ありまらうな

○ 何れさるはまをばらまきまらうな

○ 春をばらまきまらうな

○ 常丹のまをばらまきまらうな

○ 手押つてゑる先に車ぬ^の林

○ 上は裏川の中あゆみ初^の様

○ おのさうちを先にせぬ^{エヒたり}こや

○ 舟のたきる者に只^{そよ}や福^あ

○ 雲の客と皆足^のより冬牡丹

○ てめ子の若葉つむむ^のの^はま^り

○ 杖ついでる腰乃に梅^の足^り

○ 遊^の悼^り

○ 云のきり代花と考^のれ^るの^は生^の

○ 志た^のら^しの^は若^のそ^の梅^のの^さ

○ 花^の世^のも^のを^思ふ^の意^をと^り

梅

○ さる^のら^のの^は夜^のの^さく^と照^ち多^り

○ 雪^のの^こや^と練^のの^梅拂^り

○ 堪^の思^のの^二字^をと^りて^は言^のり^の雪^のの^外

○ 花^のひ^ちの^机か^のこ^のひ^と練^のの^梅拂^り

○ 空^を拂^つつ^のつ^とと^本多^く梅^の拂^り

○ 又^のの^物は^皆日^をと^りて^は雪^のの^外

○ 庭^の庭^のの^子多^くの^庭の^梅の^拂

○ 梅^の拂^り也^をに^梅の^舞と^庭の^晴れ

凡九年二月九日

ぬりや末大芽ハ元世ぬ地也

山ノ丸

山指之前に名をよき山ノ丸

山ノ丸

柳林夜ハ一きハ名一山ノ丸

山ノ丸

名ノ丸ハ山ノ丸也

凡九年三月八日 山ノ丸ハ一神ノ山ノ丸ハ一
三人ノ山ノ丸ハ一神ノ山ノ丸ハ一

三ノ丸ハ一山ノ丸也

山ノ丸ハ一山ノ丸也

山ノ丸ハ一山ノ丸也

山ノ丸ハ一山ノ丸也

山ノ丸ハ一山ノ丸也

山ノ丸ハ一山ノ丸也

山ノ丸ハ一山ノ丸也

山ノ丸ハ一山ノ丸也

山ノ丸ハ一山ノ丸也

九九二年二月九日

Dear Sir,

I have the pleasure to inform you that

your order for

has been received and is being processed.

The goods will be ready for shipment

within the next few days.

I am sure you will be satisfied with the

quality and price of the goods.

Very truly yours,

J. B. Smith

